

平成 30 年度  
第 3 回いわき市地域包括ケア推進会議  
議事録

保健福祉部 地域医療介護室  
地域包括ケア推進課

## 平成30年度第3回いわき市地域包括ケア推進会議議事録

1 日 時 平成31年3月13日（水）18:30～20:00

2 場 所 総合保健福祉センター 多目的ホール

### 3 出席者

|    |    |     |    |     |    |
|----|----|-----|----|-----|----|
| 委員 | 箱崎 | 秀樹  | 委員 | 大井川 | 浩子 |
| 委員 | 渡邊 | 健二  | 委員 | 鈴木  | 繁生 |
| 委員 | 園部 | 義博  | 委員 | 木田  | 佳和 |
| 委員 | 齊藤 | 隆   | 委員 | 板東  | 竜矢 |
| 委員 | 木村 | 守和  | 委員 | 松村  | 耕三 |
| 委員 | 田子 | 久夫  | 委員 | 中里  | 孝宏 |
| 代理 | 鈴木 | 聡子  | 委員 | 強口  | 暢子 |
| 委員 | 篠原 | 清美  | 委員 | 金成  | 克哉 |
| 委員 | 菅波 | 香織  | 委員 | 古山  | 綾子 |
| 委員 | 鎌田 | 真理子 | 委員 | 高沢  | 祐三 |
| 委員 | 新家 | 利一  |    |     |    |

※ 山内俊明委員、増山祥二委員、長谷川祐一委員欠席

### 4 事務局

|                       |     |     |
|-----------------------|-----|-----|
| 保健福祉部 次長              | 飯尾  | 仁   |
| 地域医療介護室長              | 吉村  | 公孝  |
| 保健福祉課 課長              | 駒木根 | 通人  |
| 障がい福祉課 課長             | 長谷川 | 政宣  |
| 地域医療課 参事兼課長           | 藁谷  | 孝夫  |
| 地域包括ケア推進課 課長          | 佐々木 | 篤   |
| 長寿介護課 課長              | 江尻  | 卓資  |
| 保健所総務課 参事兼課長          | 鹿野  | 康夫  |
| 保健所地域保健課 課長           | 吉野  | 優子  |
| 平地区保健福祉センター 所長        | 鵜沼  | 宏二  |
| 小名浜地区保健福祉センター所長       | 緑川  | 直   |
| 勿来・田人地区保健福祉センター 所長    | 福田  | 敦美  |
| 常磐・遠野地区保健福祉センター 所長    | 四倉  | 歩   |
| 内郷・好間・三和地区保健福祉センター 所長 | 小野  | 勝己  |
| 四倉・久之浜大久地区保健福祉センター 所長 | 池田  | 一樹  |
| 小川・川前地区保健福祉センター 所長    | 矢吹  | 和義  |
| 平地域包括支援センター 管理者       | 久保田 | 幸子  |
| 小名浜地域包括支援センター 管理者     | 加藤  | 幸恵  |
| 勿来・田人地域包括支援センター 管理者   | 野口  | 富士子 |

常磐・遠野地域包括支援センター 管理者  
 四倉・久之浜大久地域包括支援センター 管理者  
 小川・川前地域包括支援センター 管理者  
 地域医療課 主幹兼課長補佐  
 地域医療課 事務主任  
 長寿介護課 課長補佐  
 長寿介護課 主任主査兼長寿支援係長  
 長寿介護課 介護保険係長  
 長寿介護課 徴収推進担当員  
 長寿介護課 介護認定係長  
 地域包括ケア推進課 主幹兼課長補佐  
 地域包括ケア推進課 主任主査兼事業推進係長  
 地域包括ケア推進課 企画係長  
 地域包括ケア推進課 企画係 主査  
 地域包括ケア推進課 企画係 主査  
 地域包括ケア推進課 事業推進係 主査  
 地域包括ケア推進課 事業推進係 主査  
 地域包括ケア推進課 事業推進係 事務主任

小 岩 洋 子  
 熊 田 智英子  
 藤 舘 友 紀  
 酒 井 光  
 金 賀 一 樹  
 鈴 木 英 規  
 藤 舘 克 共  
 坂 入 直 人  
 草 野 哲太郎  
 根 本 豊 伸  
 山 本 博 之  
 佐 藤 和 幸  
 青 木 崇 徳  
 瀬 谷 伸 也  
 鍛 治 哲  
 橋 本 沙由里  
 相 川 朋 生  
 門 馬 理 沙

## 5 議 事

### 【協議事項】

- (1) 本人の選択と家族の心構え
- (2) すまいとすまい方
- (3) 介護予防・生活支援
- (4) 医療・看護、介護・リハビリ、保健・福祉
- (5) その他

## 6 議事録署名人の選任

議事に先立ち、本日の議事録署名人について、中里委員、強口委員が選任された。

## 7 会議の概要

|                    |  |
|--------------------|--|
| 「(1) 本人の選択と家族の心構え」 |  |
| <b>事務局</b>         | 〈説明〉   |
| <b>A委員</b>         | 地域ケア会議の本来の姿は、地域課題について、個別ケア会議⇒小地域ケア会議⇒中地域ケア会議⇒地域包括ケア推進会議というボトムアップの形で課題解決を図っていくものである。改めて委員の皆さんも認識いただければと考えている。 |
| <b>B委員</b>         | ハイリスク者の把握に関して、病院・事業所に情報が集まる印象がある。そこから居宅介護支援事業所に連絡が入り、サービスに繋がることもあれ   |

|                     |  |
|---------------------|--|
| <p><b>C委員</b></p>   | <p>ば、包括支援センターが独自に発見してサービスに繋がるケースもある。行政・民間で力を合せて一緒にサポートしていく必要があると考えている。</p> <p>居場所づくりに関して、福島市ではビーンズふくしまの活動が有名。新潟市では社会福祉法人の公益的活動として総合的な取り組みをしている法人もあるようだ。ポータルサイトなどで情報発信していくことで、ポテンシャルの高い住民が活動を起こしてくれることもあるだろう。</p> <p>ポータルサイトに関して言うと、ICT（情報通信技術）の分野で活躍し、退職した人の力が余っているようだ。横浜市などでは、ICTを生かして、福祉の現場のニーズに対応するなどしているとも聞いている。</p> |
| <p>(2) すまいとすまい方</p> |  |
| <p><b>事務局</b></p>   | <p>〈説明〉</p>  |
| <p><b>A委員</b></p>   | <p>入居・入所、葬送等支援事業（案）について、これまでも高齢者に限定し、公営住宅への入居・福祉施設への入所の際の保証を行ってきたところであり、今回は事業を拡大して取り組みたい考えである。住まいに関する会議の中で検討を進めてきており、関係機関からは概ね理解を得ているところである。3月中に第1回目の協議会を開催したいと考えており、4月から少しずつ活動を進めていきたいと考えている。</p> <p>この取り組みに関しては、周辺の人々の意思ではなく、しっかり本人の意思を確認し、その意思に沿うような形で進めていきたい。</p>  |
| <p><b>D委員</b></p>   | <p>セーフティネットのような補完的な事業に思われるが、高齢者の増加等の背景を踏まえると、選択肢の一つとして捉えられる事業であると感じている。本人の意思は大前提であり、そこはみんなで守っていかなくてはいけない。法人等のコンセンサスは得られているものと考えている。今後も協力していきたい。</p>  |
| <p><b>高沢会長</b></p>  | <p>寄付金も集めるとのことだが、税控除の対象になるとなお良いと思われる。</p>  |
| <p><b>A委員</b></p>   | <p>寄付金を控除対象とするには、認定NPOとなる必要がある。この事業については、市側の協力も必要であると考えている。</p>  |
| <p><b>高沢会長</b></p>  | <p>まずはNPOで先行して実施していくことになるが、市としても関わり方、体制などを含め、今後の状況を見極めながら制度を確立させていく必要があると考えている。</p>  |
| <p><b>D委員</b></p>   | <p>資金集めとしては、クラウドファンディングも検討できるのではないかと考えている。</p>   |

|               |  |
|---------------|--|
| (3) 介護予防・生活支援 |  |
| <b>事務局</b>    | <p>〈説明〉</p> <p>〈説明〉</p>  |
| <b>E委員</b>    | <p>短期集中予防サービスについて、何をやるのかももちろん大事だが、何のために行うかという目標が大事。ショートステイ未来月見台ではそれを具現化している。今後も他施設のモデルとなるような取り組みを続けてほしい。通所型短期集中予防サービスの事業所は足りているのかどうかは気になる場所であり、現時点での事業所数はどのような状況か知りたい。</p>                           |
| <b>事務局</b>    | <p>市内2事業所にとどまっており、不足しているため、参入促進を図りたい考えである。</p>   |
| <b>E委員</b>    | <p>総合事業の報酬体系の見直しも良いことだと思われる。今後も新たな事業所の参入促進の検討を継続してほしい。</p>   |
| <b>F委員</b>    | <p>短期集中予防サービスを入口にして、結果的に改善が難しかった人がデイサービスに繋がるのは良い流れだろうと考えている。</p> <p>また、卒業先としてシルバーリハビリ体操に繋がらないことも多いようなので、シルバーリハビリ体操をより魅力的なものに変えていくことも検討していく必要があるのではないかと考えている。また、総合事業の中で送迎サービスなども検討してみてはどうかと考えている。</p> |
| <b>事務局</b>    | <p>市ではまだ導入していないサービスとして、通所型サービスA（緩和基準）があるが、来年度は導入に向けて検討していきたい。また、事業所の参入促進については、インセンティブ加算を検討しているところである。短期集中予防サービスの内容や効果について、情報発信をしていくながら、いわき市の介護予防サービスの確立をしていきたい考えである。</p>                             |
| <b>高沢会長</b>   | <p>介護度が下がる（身体の状況が良くなる）ことで、使えるサービスが減ってしまい、がっかりする人もいるようである。短期集中予防サービスにより、就労に結び付いたケースなどもあるので、市としても広報活動に力を入れ、介護度が下がることを素直に喜べる社会にしていきたいと考えている。</p>  |
| <b>G委員</b>    | <p>自分の住む地域でのつどいの場では、包括支援センターが来てチェックリストを行ったことはないが、来ない理由はあるのか。</p>   |
| <b>事務局</b>    | <p>チェックリストによる確認は、つどいの場のメニューの1つであり、申し出があった団体のみ訪問して行っている。</p>  |

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| <b>G委員</b>                    | つどいの場に関して、市が独自で行っているとのことだが、実際は社会福祉協議会で事業を行っているように見えるがどういうことか。   |
| <b>事務局</b>                    | 市独自と記載しているのは、他市町村とは異なる本市独自の制度で行っていることからそのように記載しているところ。社会福祉協議会に委託しており、実際に現場で活躍しているのは社会福祉協議会の職員である。   |
| <b>C委員</b>                    | 他自治体ではサービス付高齢者向け住宅での利用者の困り込みが問題になっている。市でも啓発を行ったり、事業所のスキルを上げるなどの取り組みにも力を入れてほしいと考えている。  |
| <b>H委員</b>                    | <p>支え合い活動に関する資料に関して、現在は22地区で団体が立ち上がっている状況であり、あえて15のモデル地区と7つの新規地区の区別は必要ないと思われる。</p> <p>来年度も、社会福祉協議会の独自予算で、第3層協議体に対する5万円の補助事業は継続する予定である。地区で声が上がった場合は、社会福祉協議会へ問い合わせをしてほしい。今後も市民の一人一人に寄り添えるような支え合い活動を進めていきたいと考えている。</p> |
| <b>高沢会長</b>                   | <p>支え合い活動に関するパンフレットの対象者について聞きたい。</p> <p>この事業を知らない区長も多いように感じている。</p>   |
| <b>事務局</b>                    | 区長などの地域の実情をよく知っている機関などに配布したい。また、地域の中でサポーターを募集する際などに使用していただきたいとも考えている。   |
| <b>H委員</b>                    | 社会福祉協議会としては、パンフレットを用いながら、福祉推進員に説明したり、地区の区長会やサポーターを募集する際などに活用していくことになるだろうと考えている。   |
| <b>C委員</b>                    | 支え合い活動に関して、社会福祉法人の公益活動とリンクさせることが国の指針としても出てきている。地域の社会福祉法人がどのように地域とコミットして役割を果たしていくのが大切である。住民だけでは世代交代の課題もある。活動を持続可能なものにしていくには、社会福祉法人の力を活用するのも一つの案である。  |
| <b>(4) 医療・看護・介護・リハビリ・保健福祉</b> |   |
| <b>事務局</b>                    | <p>〈説明〉</p> <p>〈説明〉</p>   |
| <b>木村副会長</b>                  | データ活用による健康づくり支援を手掛ける(株)ミナケアと市と医師会の協定に関し、情報が出てきたら活用していきたい。健康医療出前講座などの取り組みなどにより、健康指標の悪いいわきの現状を良くしていきたい。   |

|                   |   |
|-------------------|---|
| <p><b>J委員</b></p> | <p>在宅医療・介護連携支援センターについて、医師会で受託することになっている。在宅医療・介護連携に関する様々な事業を行っていくことになるので、よろしく願いしたい。</p> <p>認知症初期集中支援チームは、各地区で動き始めたので、認知症疾患医療センターには難しいケースが集まってきたように感じている。市内全体を考えると、以前は相談のほとんどが難しいケースであったが、最近は初期の段階での相談も増えてきている。これは広報活動を行ってきた結果であろう。</p> <p>市内の認知症サポート医 15 名が任命された。各専門職の方と連携しながら各地区で積極的に活動を行ってもらえればと考えている。</p> |
| <p><b>K委員</b></p> | <p>訪問介護分科会で事業所ごとの課題抽出を行ってきた。働き手不足などの課題などに対して、他事業所と連携することで解決も少しずつ図ってきている状況である。地域ケア会議のようにそれぞれの課題解決を図れる仕組みづくりを進めていきたい。</p>   |

本議事録に相違ないことを証明するため、ここに署名する。

平成 31 年 3 月 29 日

議事録署名人

中 里 孝 宏      ㊞

議事録署名人

強 口 暢 子      ㊞